

— 告 告 —



村上浩規 (むらかみ ひろき)

金沢工業大学大学院工学研究科
機械工学専攻
博士前期課程二年
岐阜県 岐阜聖徳学園高等学校出身

日本刀の美と伝統を、 三次元設計法で未来へ。

物静かで、ちょっとはにかみながらカメラの前に立つ青年から、律儀な職人のイメージが立ち上がってきた。刀匠の経験や感性から生まれる日本刀の美と技を、AIを使ってデータとして可視化し、その理想形を三次元で設計する村上さんである。

「特別、時代劇ファンでも、『鬼滅の刃』のようなアニメファンでもなく、美術館へ刀剣鑑賞に行くこともほとんどありませんよ」
研究の動機は、こつちが勝手に想像した「刀剣女子」のようなものではなかった。世界に誇る日本刀も、今や刀匠の高齢化と減少が進む。年々、難しくなる技能伝承を、データサイエンスでサポートできないか探ってきたのが、村上さんが所属する畝田道雄研究室だ。

「前例がないので、自分で解を見つけて進みしかありません。そこが逆に一番面白いところでもあり、社会に出てからもこの経験が絶対生きると思った。それが理由です」

本物の刀を精巧にトレースするため、村上さんはレーザ変位計で刀の断面形状を計測する実験に新たに取り組んだ。鋒(きつさき)から莖尻(なかごじり)と呼ぶ最下端まで、繊細に変化する形と肉厚を、鎬(しのぎ)高や平地(ひらじ)厚などの十項目に分類し、三次元設計図として初めて完成させた。

それを気鋭の刀匠に実際に作ってもらった。畝田研究室として二作目となる刀で、「図面を見せた時、『本当にこれをやるんですか』と驚かれたのが印象的でした」。前作の二次元設計図を知る刀匠にすれば、進化した研究に目を見張ったであろうことは想像にかたくない。そして、刀は特別出品した昨年

の第十一回新作日本刀技術展覧会(日本刀文化振興協会主催)で、見事、金賞相当に輝いた。二作目が入賞相当でしたから、前進できてうれしい気持ちでいっぱい。受賞の一報は、地道に続けてきた研究への評価であり、また、自らの成長への手応えでもあった。

村上さんは、大学院博士後期課程への進学を決意している。「夢は、文化財クラスの日本刀の美に迫ること。そのために日本刀の全視野も興味を持ってもらえよう、VRで鑑賞できるアプリケーション開発にも挑みたい」。これから彼の手がける研究が、日本刀の伝統を守るだけでなく、これまでにない煌めきを与える砥石になるのではないか。そんな期待と興奮を覚えながら大学を後にした。

金沢工業大学
石川県野々市市扇が丘七-1
電話番号(076)248-1100

KIT
キャンパス
レポート
文・杉村裕之